

様式

試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究
課題名：春季の房総沿岸へのカツオの来遊経路			
<p>[要約] 房総沿岸に来遊するカツオを来遊経路別に把握するために、勝浦港に水揚げされる近海竿釣船の漁獲物から、小笠原北上群の解析をおこなった。近年は曳縄が対象とする魚群は、黒潮北上群ではなく、竿釣が漁獲する小笠原北上群が主体であると推測された。</p>			
キーワード	カツオ，来遊経路，房総沿岸，曳縄，北上群		
実施機関名	主 査	水産総合研究センター	資源研究室
	協力機関		
実施期間	2007年度～2010年度		

[目的及び背景]

日本近海へのカツオの来遊経路は、① 黒潮沿いに北上する沿岸ルート、② 小笠原から伊豆諸島付近を北上するルート、③ 沖合いを北上するルートがあると考えられている。近年、日本近海でのカツオ漁獲量は減少しており、房総沿岸での春季のカツオ曳縄漁も不漁が続いている。そこで、カツオ曳縄の漁況予測の精度向上に当たり、房総沿岸へのカツオの来遊水準を来遊経路別に把握するため、勝浦に水揚げされる近海竿釣船の漁獲物から、小笠原北上群の来遊特性を解析した。さらに、漁期前半の魚群の由来についても検討をおこなった。

[成果内容]

- 千葉県におけるカツオ曳縄水揚量は、2000年頃から不漁傾向が続いている（図1）。
- 春季に小笠原近海から北上するカツオを漁獲する近海竿釣船の水揚げが集中する勝浦港における竿釣の水揚量と曳縄の水揚量と比較すると、2001年以降は相関が高いことから、近年は曳縄が対象とする魚群は、黒潮北上群ではなく、竿釣が漁獲する小笠原北上群が主体であると推測された（図2）。
- 竿釣によるカツオの尾叉長組成を漁獲位置（緯度）別にみると、北緯30°以南では50cm以上の大型魚が出現するが、30°以北へは房総沿岸での曳縄漁獲物と同じ40cm台にモードがみられる小型魚のみが北上することが明らかになった（図3）。さらに、その小型魚が房総近海（北緯34°以北）に到達するのは、5月頃であり、その時に曳縄の漁獲が増加することも確認された（図4）。
- また、1~4月の曳縄による漁獲動向は、前年秋季（9~12月）の下りカツオの水揚量の動向に比較的類似することから（図5）、秋季の下りカツオが南下せず太平洋岸の黒潮沿いに滞留し、翌年の曳縄漁期前半の漁獲対象になると推察された。

[留意事項]

[普及対象地域] 外房～内房地区、小型船漁業者及び産地市場関係者

[行政上の措置]

[普及状況] これらの成果は、3月に発表する「春季のカツオ曳縄漁の見込み」の根拠として利用されている。

[成果の概要]

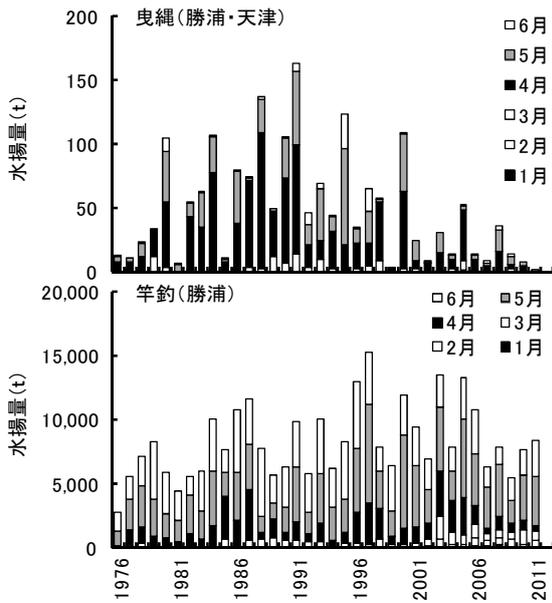


図1 千葉県主要港（勝浦，天津）における曳縄および勝浦港に水揚げされる近海竿釣船のカツオ水揚量の経年変化（1～6月；t）

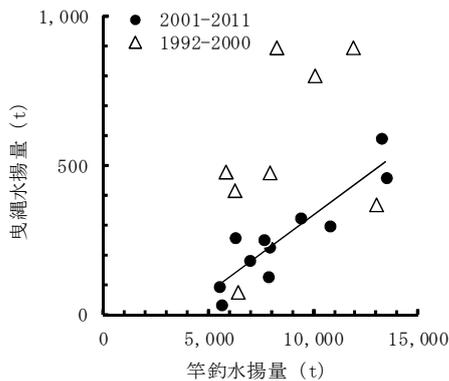


図2 近海竿釣船により勝浦港に水揚げされたカツオ水揚量（1～6月）と主要3港の曳縄によるカツオ水揚量の比較

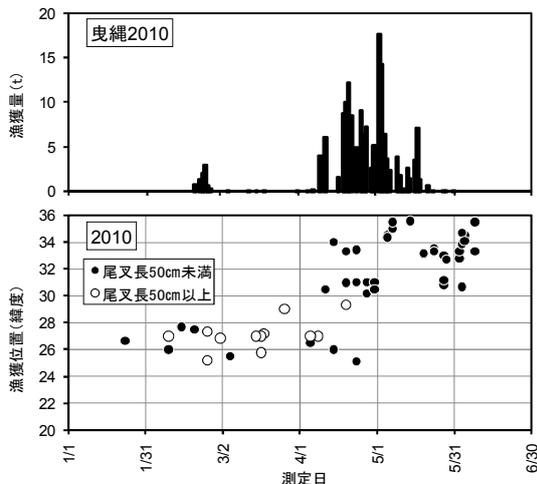


図4 勝浦港に水揚げした近海竿釣船のカツオ漁獲位置（緯度）の時系列変化と川津漁港におけるカツオ日別漁獲量（t）

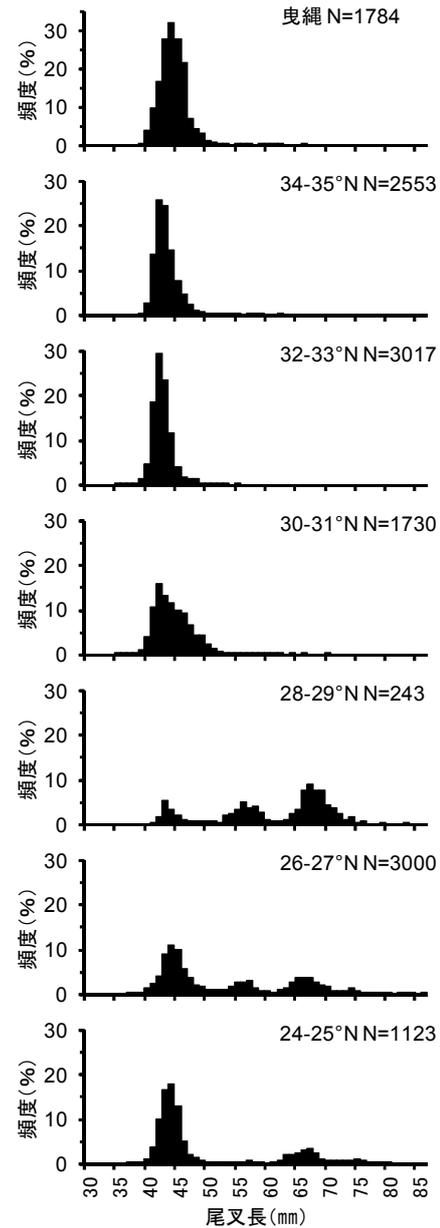


図3 勝浦港に水揚げされた曳縄と近海竿釣船の漁獲位置（緯度）別カツオ尾叉長組成（2010年）

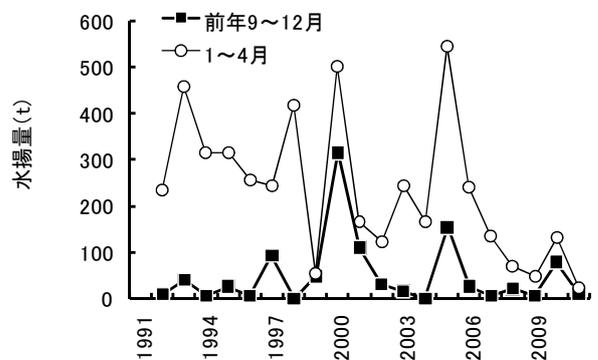


図5 主要3港における前年9～12月と1～4月の曳縄によるカツオ水揚量の経年変化

[発表及び関連文献] 漁海況旬報らば (No.20-19, 23-06, 23), 平成 22, 23 年度試験研究成果発表会

[その他]